



音楽文化の醸成向上

お ばら てっ じ
小 原 徹 二

(89歳)

住所
大曲市

昭和29年に創設した建設会社は、社会情勢や経済の変化に対応しながら、今日では地元産業界を代表する企業に成長している。これは、崇高な人格と卓越した経営手腕によるものであるが、企業の発展は、地域の人々の尽力と支援によるものとの考えから、地域への感謝と人々の幸福を願い、音楽施設の設置や楽器等の整備に多大な貢献をしている。

また、地域の発展は、優れた人材の育成と文化の高揚にあるとの信念から、井上圭子、小松英典（大曲市出身、ブレーメン音楽大教授）、クルト・モル、シュテファン・ジーバス等内外からの音楽家の招聘に努め、演奏会を成功に導くとともに、地元出身の音楽家の活動支援に尽力するなど音楽文化の醸成・向上に尽くされた功績は大きなものがある。



林業の振興、緑化推進

しば た よ た ろう
柴 田 与 太 郎

(81歳)

住所

雄勝郡羽後町

戦中、戦後の山林の過伐乱伐による荒廃した国土復旧のため、昭和25年に発足した県国土緑化推進委員会の委員として復旧造林に努め、その育成に宮々として励み、森林愛護を身をもって実践したほか、緑の少年団の結成、林業後継者の育成に多大な尽力をしている。

また、荒廃した民有林の復興の推進力となり、将来の地域林業の担い手は森林組合であるとの認識から、いち早く森林組合の合併問題に取り組み、永年県森林組合連合会長として森林組合の経営安定と事業の拡大を図り、基盤整備、育成強化に多大な尽力をしている。

このほか、分収造林地の拡大や造林用苗木の一括購入制度を導入するなど、計画造林の遂行と造林面積の拡大に努め、今日の他に類を見ない美林を育て上げた功績は誠に大きく、林業の振興に大きな貢献をしている。



自然科学の研究

く どう しげ み
工 藤 茂 美

(81歳)

住所
能代市

昭和7年から本県の動植物の研究に励み、その研究成果を数多くの論文として専門誌に発表し、全国に紹介するなど高い評価を得ており、中でも鉄魚の成因についての研究、ヒョウモンチョウ等の生活史やアゲハチョウ数種の北限を日本で初めて解明し、現在も他の論文に引用されている。

また、各種学術研究や文部省奨学金による研究などに積極的に取り組み、その成果は自然保護行政や各種分析の指針となっている。

このほか、県花いっぱい運動の会の依頼によるテキストの編集や児童用著書、地域別一般用著書などは新しい編集手法で高い評価を得ている。現在も、菅江真澄の記録にある植物の実地調査などに精力的に取り組むなど自然科学の研究に大きく貢献している。



スポーツの普及振興

うち やま まこと
内 山 眞

(80歳)

住所
秋田市

昭和23年、県高等学校体育連盟の創設に参画して以来、各役職を歴任して組織の強化充実に努めるとともに、昭和30年には、各種目毎に各地で開催されていた全県大会を統合して、今日の高校生最大のスポーツの祭典である全県高等学校総合体育大会を開催することに尽力している。

また、県体育協会の役員として、「県民のスポーツ総参加」をスローガンに、昭和46年「県民スポーツ大会」を誕生させるなど、スポーツを通じ明るく豊かな社会生活の実現に果たした功績は大きなものがある。

このほか県サッカー協会、県剣道連盟の創設に参画してその普及発展に尽力するとともに、自らも秋田商業高校サッカー部の指導者として3度全国優勝に導き、また、剣道については、昭和50年に剣道道場「雄心館」を開設し、全国レベルの少年剣士の育成に努めるなど、青少年の健全育成にも多大な貢献をしている。



学校教育、生涯学習の発展

かま だ ひろし
鎌 田 宏

(77歳)

住所
秋田市

昭和13年から国語科教員として、本県の国語科教育、学校図書館教育の指導に尽力して優れた業績を残し、その質の高さを全国に知らしめた功績は誠に大きいものがある。

また、県が全国に先駆けて取り組んだ生涯教育の推進本部の初代事務局長に就任し、県民の理解と啓発に努めるとともに、市町村の推進体制の整備に尽力したほか、秋田市立中央図書館明德館が開催した「市民文化講座 万葉の人々」の講師を務め、これを契機に「明德古典の会」を主宰するなど、本県の生涯学習の振興・発展に貢献している。

このほか、昭和44年に随想集「古草新草」を刊行し、現在まで12冊発刊しており、平成6年には「新聞の来ない日」で随筆の芥川賞といわれている「日本随筆家協会賞」を受賞するなど、自らも生涯学習を実践している。



書道の普及発展

しげ ばやし こう ぜん
茂 林 孝 全

(73歳)

住所
秋田市

昭和9年、辻本史邑（奈良県）の学生書鑑により書を習い始めて以来、石田白樹、土崎龍山に学び、柳田泰雲（日展参与）に師事して書家としての道を確認する一方、昭和25年には孝華書院を設立し、一般人にとどまらず、学生書道の普及・指導に力を注ぎ、各種展覧会において多くの入賞者を輩出するなど、後進の育成に優れた実績を残している。

自らは、昭和32年、日展初入選以来、朝日中堅展、日本書道美術展など各種展覧会に入選するとともに、絶ゆまぬ研鑽を積み、個展の開催や優れた作品の発表など書道の普及・発展に尽力している。

また、昭和39年秋田県書道連盟創立に参加して以来、常任理事として事業の企画運営に積極的に参画し、連盟の基盤強化に努めるとともに、書道をとおして本県の芸術文化の発展に大きく貢献している。



郷土史の研究

たぐち しょういちろう
田 口 勝 一 郎

(71歳)

住所
秋田市

昭和31年から県内の小・中学校で教鞭をとりながら県内の歴史研究に献身的に取り組み、「秋田県史」の共同執筆をはじめ、本県歴史書の第一級資料とされている「新秋田叢書」の刊行に携わるとともに、「秋田県林業史」「秋田県教育史」「秋田県労働運動史」等の地方史の刊行にも尽力しており、特に、本県の自由民権運動の研究分野においては、第一人者として郷土の歴史研究の進展に大きく貢献している。

また、本県で初めて本格的に農書研究の分野に取り組み、農業先覚者の発掘に努めるとともに、その研究論文が「日本農書全集」に収録され、本県の農業県としての発展経過が全国に紹介されるなど、高い評価を得ている。

このほか、昭和33年に創設した「秋田近代史研究会」の代表委員として、本県近代史学の研究発展に尽くされた功績は誠に大きいものがある。